



【本号のトピックス】

臨床研究に関する倫理審査について／第30回学術大会のご案内／研修会開催報告／委員会だより／研究倫理の啓発⑤／支部だより／専門医活動レポート・新規認定者の声／学会だより ほか

臨床研究に関する倫理審査について

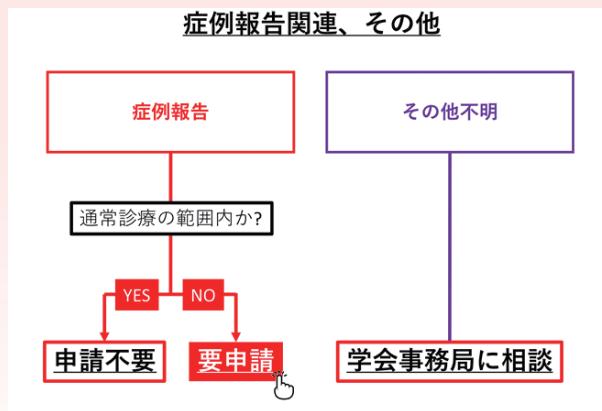
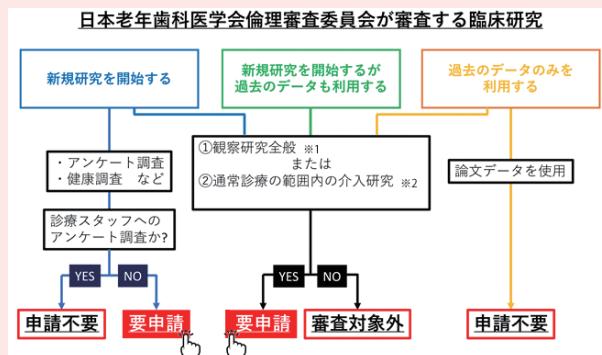
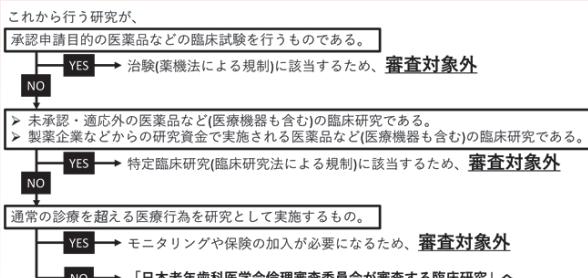
倫理審査委員会委員長 山崎 裕

日本老年歯科医学会では、2020年の第31回学術大会から発表演題に関しても、人を対象とする医学研究の場合には、事前に倫理審査の承認を受け、事前および事後抄録に倫理審査の承認番号を明記することを義務付けます。倫理審査は、研究開始前の過去1年以内に倫理研修（倫理研修は本学会でもE-ラーニングとして受講することができます）を受講したうえで、研究計画などについてかかるべき機関の倫理審査を受けて承認される必要があります。

通常診療範囲内の症例報告は該当しませんが、研究目的の採血、検査、撮影などが行われる場合には該当します。また、過去の診療録などを検索する研究や、患者さんへのアンケート調査などでも必要になります。

研究開始前に以下の3つの図を基に、これから行う研究が倫理審査を必要とするか、そして本学会が審査する臨床研究なのかを確認してください。「要申請」は本学会での審査が可能ものです。「申請不要」は倫理審査が必要なもの、「審査対象外」は倫理審査の必要はありませんが本学会では審査しない臨床研究になります。なお、本学会での倫理審査は所属する施設に倫理審査委員会を有していない場合のみとします。

まずは本学会ホームページの右上のタブ「研究倫理」をご熟読ください。ご不明の場合には、学会事務局にご相談ください。



一般社団法人日本老年歯科医学会第30回学術大会のご案内

～杜の都で「食」と「老年歯科医学」の未来について考えましょう～

第30回学術大会準備委員長 山口哲史

2019年6月6日(木)から8日(土)まで、仙台国際センターにおいて第30回日本老年歯科医学会学術大会を開催いたします。メインテーマを「食べる力を支える老年歯科医学」とし、食を通して高齢者の健康に寄与する歯科医学の取り組みについて知ることができる学会を目指しています。また、今回は日本老年学会(総会)として7学会の同時開催となり、他職種との合同シンポジウムも多数用意されています。多くの皆様とお会いできることを楽しみにしております。

【企画充実!】

他学会との合同セッションや、歯科衛生士シンポジウム、インプラントに関する教育講演など、幅広い分野の方々に興味をもっていただけるような企画と準備を進めています。

会期: 2019年6月6日(木)~8日(土)
6・7・8日: 学術大会・社員総会・支部長会・各種認定審査
7日: 会員懇親会
会場: 仙台国際センター
〒980-0856 仙台市青葉区青葉山無番地
TEL: 022-265-2211(代表)
※詳細は学術大会ホームページ
(<https://site2.convention.co.jp/30jsg/>)をご覧ください。

【事前参加登録期間】

2019年4月30日(火)正午まで

【会員懇親会のご案内】

すべての会員・学術大会参加者を対象とした懇親会です。学術大会の会場である仙台国際センターで開催いたします。所属や分野の垣根を越えて和やかで楽しいひと時を企画しておりますので、ぜひご参加いただきますよう、お願い申し上げます。

日 時: 2019年6月7日(金) 18:00~20:00

会 場: 仙台国際センター 第10会場(展示室3-A)

会員懇親会登録: 事前登録と同様に大会ホームページにて受け付けます。



第6回高齢者医療臨床研修会

「認知症患者の口腔機能管理と栄養管理」開催報告

研修委員会委員長 片倉 朗
同委員・幹事 潮田高志

第6回高齢者医療臨床研修会が福岡支部、長崎支部、佐賀支部、宮崎支部、熊本支部、大分支部、鹿児島支部の共催で、また福岡県歯科医師会、長崎県歯科医師会、佐賀県歯科医師会、宮崎県歯科医師会、熊本県歯科医師会、大分県歯科医師会、鹿児島県歯科医師会の後援を受け、2019年3月24日(日)「TKPガーデンシティ博多」にて開催されました。

昨年12月に東京で開催した第5回研修会と同様に、認知症と栄養管理に焦点を絞り、「認知症患者の口腔機能管理と栄養管理」をテーマとして、国立精神・神経医療研究センター病院精神科 横井優磨先生から「歯科臨床で必要な認知症の病態と治療」、日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック 菊谷 武先生から「ミールラウンドを極める」、株式会社ケアサービス 配食池上センター 栗原明子先生から「ミールラウンド～最期まで口から食べるため～」の3演題をそれぞれご講演いただきました。また本学会での啓発活動として「口腔機能低下症の検査と診断」のミニレクチャーを、東京歯科大学老年歯科補綴学講座 大神浩一郎先生からご講演いただきました。

当日は難波亮二大分支部長からご挨拶いただき、九州地区的活発な活動が紹介されました。

研修会では、特にミールラウンドの講義で、講師の先生に多くの動画をご準備いただき、明日から実践できる内容

をご提供いただきました。講演終了後はパネルディスカッション形式で質疑応答が行われましたが、認知症患者への向き合い方に関する関心が高く、診療時の日頃の課題を共有することができました。また講演終了後も各講師の先生方に個別質問を行っている参加者も散見され、非常に有意義な研修会となりました。

今回は、事前参加申込時に定員満席となり、当日参加者は95名で九州を中心とした近県からの参加者が大多数でしたが、関西地区からの参加もいただきました。本事業は、安全な高齢者歯科医療を提供するための全身的管理を大きなテーマに2019年度も企画が予定されています。



参加者からの質問にお答えする講師の先生方

委員会だより

歯科衛生士関連委員会

委員長 石黒幸枝

歯科衛生士関連委員会では、①老年歯科分野の認定歯科衛生士の審査、②学術大会における委員会担当の企画と運営、③セミナーの開催の3つを柱に活動しています。認定歯科衛生士審査では、申請手続きを完了した歯科衛生士会員を、書類審査、口頭試問およびプレゼンテーションにより合否判定して、日本歯科衛生士会に推薦しています。認定と更新は日本歯科衛生士会が担当し、両会の協力のもと毎年実施しています。学術大会では、歯科衛生士シンポジウム・交流会・相談コーナーの企画および運営を行っています。シンポジウムはタイムリーなテーマを取り上げ知識のアップデートを図り、交流会では歯科衛生士間の情報交換の場の提供を心がけています。また、これから認定取得を目指す歯科衛生士がスムーズに申請手続きができるよう、相談コーナーを設けて対応しています。委員会主催のセミナーでは、昨年まで歯科衛生研究を中心に進めてきましたが、今年は「口腔機能評価の実践」を取り上げ、講義に加えて実技による実践的な内容を計画しています。これら委員会の活動を広く周知するために、イラストを作成しました。このイラストとともに、老年歯科を担う歯科衛生士の活動の幅がさらに深まることを目指していきたいと考えています。



JSG2018



作成したイラスト

JSG2018

国際涉外委員会

委員長 小野高裕

世界でも有数のスピードで超高齢社会に突入した日本の高齢者歯科医療と老年歯科医学は、世界から熱い注目が注がれていることは皆様ご存知のとおりです。今後、日本老年歯科医学会（JSG）と諸外国の学術・医療団体との双方向の情報交換はますます重要になると考えられますが、そのための「窓口」の仕事をするのが本委員会です。JSGは2015年に台湾老年歯科医学会（TAGD）、2018年にヨーロッパ高齢者歯科医学会（ECG）と交流協定の覚書を締結しました。

台湾は地勢的・文化的な親近感があり、日本から学ぼうという姿勢も強く、今年からお互いの学術大会で研究発表を行う場合、参加費は免除として、実質的な学術交流を促進することになりました。3月には初めての台日高齢者歯科サミットが台北で開催され、その後6月に仙台で開催される本学会学術大会には、TAGDから口演・ポスター合わせて6題の発表が行われる予定です。

一方、ECGは2018年のロンドンでの GORG、ECG、JSG 合同シンポジウムの大成功を受けて、今年5月に風光明媚なオランダのアーヘルスフォールトで開催される ECG 年次大会では、日本の老年歯科医学の最先端を学ぶという趣旨で JSG セッションが組まれています。こうした老年歯科医学の国際交流のチャンスを逃すことなく、さらに交流の輪を広げるお役に立てればと、委員一同頑張っております。どうか会員の皆様も、積極的に TAGD や ECG に参加されますよう、また本学会学術大会での海外からの参加者と交流していただきますよう、よろしくお願ひいたします。

* 第29回 ECG 開催のお知らせ *

テーマ : Joining forces to improve (oral) health

会期 : 2019年5月15～17日

会場 : Flint (Coninckstraat 60, 3811 WK, Amersfoort, The Netherlands)

大会長 : Gert-Jan van der Putten, MD, PhD

Webサイト : <https://www.ecg2019.eu/>

研究倫理の啓発⑤～倫理研修・審査は大学や研究機関以外に所属する人も関係があるのか～

倫理委員会副委員長 大野友久、委員長 竹島 浩

関係あります。むしろ十分留意する必要があります。人を対象とした医学研究の場合には基本的に事前の倫理審査が必要です。大学や研究所で実施される、比較的規模の大きい研究だけが倫理審査の対象、というわけではないのです。また、今後は論文執筆だけでなく、学会発表の際にも倫理審査の承認番号が必要になります（2020年度から）。さらに、症例報告でも学会発表の際に倫理審査が必要な場合もあります。本学会ホームページに「臨床研究に関する倫理審査」についてまとめたフローチャートがありますので、ご自身の研究、発表内容がどこに該当するか確認してみるとよいでしょう。

<http://www.gerodontology.jp/committee/001606.shtml>

大学や研究機関では、各施設内で倫理研修が実施され、倫理審査を担当する委員会が設置されていることがほとんどですが、それ以外の所属の方は倫理研修・審査にアクセスしにくい環境といえるでしょう。本学会もサポートしますが、みずから積極的にアクセスする必要があります。

- ・人を対象とする医学研究の場合は、倫理審査が必要
- ・第31回学術大会（2020年）から発表演題についても倫理審査が必要
- ・症例報告でも倫理審査を必要とする場合がある
- ・大学などに所属していない場合でも、研究内容によって倫理研修・審査が必要

| 支 | 部 | だ | よ | り |

栃木支部共催セミナー 「第10回北関東摂食嚥下 リハビリテーション研究会」開催報告

栃木支部 尾崎研一郎

栃木支部は、2019年2月10日(日)に足利歯科医師会との共催で「第10回北関東摂食嚥下リハビリテーション研究会」を小山市立文化センターにて開催しました(参加者 216名)。山口朱見先生(医療法人財団千葉健愛会 あおぞら診療所 歯科衛生士)から「在宅診療における歯科衛生士としての口腔健康管理」、戸原 玄先生(東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 老化制御学講座 高齢者歯科学分野 准教授)から「摂食嚥下障害の評価と訓練の実際」のご講演をいただきました。今回は歯科職種からの講演であり、改めて口腔の重要性を他職種に伝える良い機会になりました。次回第11回は2019年8月25日(日)、講師 植田耕一郎先生の予定になります。ぜひ、ご参加ください。



講演後 20 分ほど活発な質疑応答がなされました

群馬・栃木支部共催セミナー 「平成31年群馬県館林邑楽歯科医師会 市民公開講座」開催報告

栃木支部 尾崎研一郎

群馬支部・栃木支部は、2019年3月2日(土)に群馬県館林邑楽歯科医師会の主催にて市民公開講座(参加者 50名)を行いました。筆者である尾崎研一郎(足利赤十字病院 リハビリテーション科 歯科医師)から「お口の健康に関する口腔機能の基礎知識と口腔機能低下症について」、合場千佳子先生(日本歯科大学東京短期大学 教授)から「お口の機能に関連した評価を試してみましょう」の講演を行った後に実習を行いました。市民の参加者には歯磨きのほかに、舌のケア、口腔水分計や舌圧測定器、グミ咀嚼などを体験してもらい、口腔機能低下症について理解を深めてもらいました。参加者のなかに口腔機能低下症の方がいたのが印象的でした。実習の準備や片付け、各参加者への実習中の対応は日本歯科大学東京短期大学スタッフのサポートをいただきました。誠にありがとうございました。



満員の会場での講演の様子

第3回千葉支部主催セミナー 「地域包括ケアシステムにおける 歯科の役割」開催報告

千葉支部 杉山哲也

2019年2月10日(日)、千葉県歯科医師会、同歯科衛生士会の後援を受けて標記セミナーが県歯科医師会館で開催されました。那須郁夫支部長の人生100年時代にも触れた趣旨説明に続き、川崎市開業の須貝昭弘先生による「超高齢社会がかかりつけ歯科医に求めること」と、東京都健康長寿医療センター研究所の本川佳子先生による「高齢者の栄養ケア～フレイルから認知症まで～」の2講演が行われました。臨床の現場と研究の立場から、高齢者の栄養に焦点を当てながら地域包括ケアシステムで歯科が果たすべき役割についての知見を得ることができ、厳寒の日ではありましたが室内は熱気に溢れ、80余名の参加者の96%(事後アンケート結果)が「良かった」と満足されて帰路につかれました。



市民の方々との体験実習の様子

専門医活動レポート

北川栄二先生(JR札幌病院歯科口腔外科)

JR札幌病院は小規模ながらも、開院から100年以上の歴史をもつ急性期総合病院です。当院における老年歯科に関連した私の主な業務をご紹介します。

1. 症例の概要

私の外来診療患者の平均年齢は約75歳で、当院他科に通院中あるいは入院の方が多く、ステロイド、生物学的製剤、免疫抑制剤、骨修飾剤、抗がん剤、抗血栓剤などを投与されている有病患者がほとんどです。また、他院からの紹介患者は年間約1,400名、静脈麻酔症例は年間約700例です。超高齢者、認知症患者、重複する併存疾患有する患者など、慎重な配慮、管理を要する症例が増加しています。

2. 摂食嚥下障害対策チーム

誤嚥性肺炎や難病に伴う嚥下障害で入院される方が多く、多職種連携で対応しています。VE、VFなどの検査に加えて、定期的なミールラウンドで、食事形態や姿勢調整などの評価・サポートを行っています。2018年に対応した患者は約160名でした。

3. 創成川DC(dental conference)

有病高齢者に対する歯科口腔外科治療を念頭において勉強会・講演会を、連携歯科医師を主な対象として、2016年より毎月行っています。講師は院内外の医師、歯科医師などが担当し、糖尿病、心疾患、救急処置、誤嚥性肺炎、訪問歯科診療、BRONJ、歯の移植再植など幅広い内容となっています。地域連携や医科歯科連携の円滑化にも貢献していると思います。



外来で静脈麻酔

新規 専門医認定者の声

中山済利先生(日本大学歯学部摂食機能療法学講座)

「僕が誰だか覚えてる?」「誰だっけ?忘れちゃったあ~,ハハハ」その方の屈託のない笑顔が見たくて、訪問診療で伺うたびに尋ねています。

私は普段からご高齢の方を診療する機会が多く、最新の老年歯科医学を学ぶため、本学会に入会しました。専門医試験の勉強は、出題範囲が多岐にわたるため、楽なものではありませんでしたが、今まで知らなかった老年医学の知識を得る良い機会になりました。

高齢者医療は、ときに悲しい別れを経験することもありますが、人ととのふれあいを感じられる医療だと思います。1人でも多くの方が素敵なエンドオブライフを送れるように、これからも研鑽を積んでいきたいと思います。



栗原由紀夫先生(栗原歯科医院)

保健・医療・福祉の連携がしきりに話題となり、本学会でもたびたび取り上げられてきましたが、歯科医療職と他分野の職種の方々との連携はまだ十分とはいえません。

この状況を少しでも前へ進めようと、米山武義先生を会長に「口腔ケアネットワーク(三島)」という地域における顔の見える連携の構築を目指した団体を、2006年に設立しました。

その活動として年3回の会員研修会、および現在まで保健・医療・福祉の専門職を対象としたシンポジウムを2回、市民向け講演会を1回開催しています。しかし、これらの活動は、他分野においても連携の構築を強力に推し進める必要性を感じている方々の協力なしでは実行できません。この必要性の共有こそが連携の基本と考えています。

私の周りには米山会長はじめ、地域連携の強力な仲間たちが多数存在していますが、残念ながら歯科医療職は非常に少ないのが現状です。彼らに他分野への関心をもてるような活動を行うことも、専門医には課せられていると考えています。



市民講演会



尾崎由衛先生(国立病院機構西別府病院歯科)

私は大学勤務、急性期病院勤務を経て、現在、慢性期病院に勤務しており、かねてより高齢者歯科医療に携わってきました。病院勤務ですので、NSTをはじめ多職種協働する場面は多く、歯科の情報(摂食嚥下機能・口腔環境情報)を他職種へ伝達する役割を担うと同時に歯科以外の情報や知識を得る機会に恵まれてきました。専門医取得のきっかけは、研修機関を離れており、今でも受験資格があることを学会からの案内でした。試験対策として出題範囲のテキストに目を通しましたが、学ぶ機会のなかった介護保険制度に関する知識が得られたことは新鮮でした。今後、「老年歯科専門医」を自分のバックボーンに加え、より責任をもって地域医療へ貢献していきます。



学会だより

本学会賛助会員が「第44回 発明大賞本賞」を受賞されました！

口腔粘膜湿潤度検査機器にて、「第44回 発明大賞本賞」を受賞された、株式会社ライフ 代表取締役 古川誠様より以下コメントをいただきました。

「日本発明振興協会／日刊工業新聞社主催『第44回 発明大賞』の最高位である発明大賞 本賞を、ライフ『口腔水分計ムーカス®』が受賞しました。口腔水分計ムーカス®は『口腔機能低下症』の保険診療機器の一つであり、『②口腔乾燥：口腔粘膜湿潤度の検査』に使われています。2秒で簡単に測定できるため、高齢者や義歯装着者、また、患者さんの意思によらず測定できるものです」



口腔水分計ムーカス®と受賞スピーチの様子

「要介護高齢者の口腔・栄養管理のガイドライン2017」を公開しました！

本学会の会員を中心とした研究班で作成した「要介護高齢者の口腔・栄養管理のガイドライン 2017」が学会ホームページに掲載されました。要介護高齢者に対する歯科と栄養の連携による食支援で効果が得られることは医療、介護の現場では実感されるところですが、エビデンスはまだまだ不足しています。本ガイドラインが当該研究の推進にお役に立つことを願っております。

日本老年歯科医学会ホームページ

http://www.gerodontology.jp/publishing/file/guideline_guideline_20181130.pdf

日本在宅栄養管理学会ホームページ

http://www.houeiken.jp/youkaigo_guideline.pdf

（「要介護高齢者の口腔・栄養管理のガイドライン」

作成委員会委員 渡邊 裕）

支部セミナーのご案内

★詳細は学会ホームページをご確認ください。

・北海道支部主催セミナー

「第18回北海道口腔ケアセミナー」

日 時：2019年5月25日（土）12:30～17:00

会 場：北海道自治労会館 5F 大ホール

主 催：日本老年歯科医学会 北海道支部、北海道口腔ケア研究会

・奈良支部共同開催セミナー

「第6回在宅療養支援歯科診療所の施設基準講習会」

日 時：2019年6月2日（日）10:00～12:00

会 場：奈良県歯科医師会館

共 催：奈良県歯科医師会、奈良県歯科衛生士会



編集後記

平成最後のNews Letterをお届けします。トップページには本学会倫理審査委員会委員長である山崎 裕先生より、本学会における臨床研究の倫理審査に関する内容を明記していただきました。「臨床研究」=人を対象とする医学研究には倫理審査が必須となり、会員の皆様の適切な研究活動のためにも、今一度、「研究倫理」についてご理解のほどよろしくお願ひいたします。また、第30回学術大会の事前登録は4月30日までとなっております。多くの皆様のご参加をお待ちしております。
(貴島真佐子)



発行人 佐藤裕二

編 集 (一社)日本老年歯科医学会広報委員会

事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9

駒込TSビル (一財)口腔保健協会内

電 話 03-3947-8891 FAX 03-3947-8341

E-mail gakkai30@kokuhoken.or.jp